

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2011～2015

課題番号：23222001

研究課題名(和文) 仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集(パウッタコーシャ)の構築

研究課題名(英文) The Creation of Baudhakosa: A Treasury of Buddhist Terms and Illustrative Sentences

研究代表者

斉藤 明(Saito, Akira)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：80170489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 81,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はXML形式(拡張可能なマーク付き言語)により関連文献および用例の整理を行った上で、重要な仏教術語に関して、その定義的あるいは主要な用例を訳語の根拠として提示しながら、現代語(日本語・英語)への基準的な訳語を検討し、提起することを目的とする。期間中に、『瑜伽行派の五位百法』(パウッタコーシャII)山喜房仏書林および『ブツダゴースの著作に至るパーリ文献の五位七十五法対応語』(同III)同の両成果を紙媒体で公にするとともに、HP(http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/html/preface_1.html)において、関連データを含め、Web媒体で公開した。

研究成果の概要(英文)：During the five-year term of this project from 2011 to 2016, the research was executed by the effective use of XML (Extensible Markup Language). The project applies the method, which was previously established by our related project on the analysis of Sarvastivada's Seventy-five dharmas, to the other two fields, namely the corresponding dharma-systems of both Early Buddhism and Yogacara school.

The above research brought to us the following two books: The One Hundred Elements (dharma) of Yogacara in the Abhidharmasamuccaya and Pancaskandhaka, Baudhakosa II, ed. by Akira Saito et al and Pali Terms Corresponding to the Seventy-five Elements (dharma) up to Buddhaghosa, Baudhakosa III, ed. by Fumio Enomoto et al, both of which were published from Tokyo: Sankibo Press, 2014. Besides, Those contents, along with its more detailed data, are now widely opened in the Home-page of this project (http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/html/preface_1.html).

研究分野：印度哲学・仏教学

キーワード：パウッタコーシャ 仏教術語 瑜伽行派 五位百法 ブツダゴース 五位七十五法 翻訳

1. 研究開始当初の背景

- (1) 仏典にはきわめて多くの専門用語が登場する。その中の多くは、サンスクリット語やパーリ語をふくむ中期インドアリアン語を基礎としながら他の諸言語への訳語、とくに漢訳語として定着した術語(「四聖諦」「五蘊(陰)」「縁起」等々)として、東アジアの仏教世界において広く受容されてきた。また、これらの専門用語には、インド由来の概念を基礎としながらも、中国仏教の展開過程において成立した術語(「理事無礙」「十界互具」「草木成仏」等々)も少なくない。
- (2) 伝統的な術語の中には、「縁起」「無我(非我)」「中道」など、簡にして要を得た絶妙な訳語も多く、これらはすでに日本語として定着して久しい。
- (3) 一方でまた、「集(ツ'ユ)」「色(シ)」「捨」や「世俗」や「戲論(ケロ)」などの訳語のように、すでに原意を捉えるのが難しくなっている術語も多く、これらは仏教思想を的確に理解する上での大きな障壁となってきた。

2. 研究の目的

- (1) 以上のような事態の克服をめざして、本プロジェクトは、これら多くの術語の意味をそれぞれの文脈において再検証し、その上で、学界の衆知を結集して、それらを現代語(日本語と英語)として蘇生させることを目的として立案された。

3. 研究の方法

- (1) 本研究では、各分野を代表し最先端の研究を進める研究者を分担研究者および連携研究者に配し、それぞれの研究分担者が研究班を組織し、5年間の研究期間の中で、海外共同研究者および大学院生の協力を得ながら、実質的な成果を着実に積み重ねた。
- (2) 研究代表者は、すでに有部アピダルマの五位七十五法に関して、XML(拡張可能なマーク付け言語)形式を方法として具体的な成果をもたらした。本研究は、この方法をさらに他の領域上の関連文献と術語を対象とす

る際の方法論上の諸課題を克服しつつ、紙媒体および Web 媒体で成果を公にする。

4. 研究成果

- (1) 本プロジェクトは、すでに関連する先行研究の成果として公にした『「俱舍論」を中心とする五位七十五法の定義的用例集』(2011)を基礎にして、初期仏教における五位七十五法対応語、および大乘系の瑜伽行派による五位百法に関する成果を刊行した。以下は、「念」と漢訳されることの多いサンスクリット仏教術語 *smṛti* の『俱舍論』に見る定義的用例とそれを根拠に提示する基準訳例である。

smṛti

【基準訳例】 [日] 記憶, 憶念 [英] memory

【漢訳】 念(玄奘, 真諦) [参考] DDB

【チベット語訳】 dran pa (cf. Mvy no.1930)

【定義的用例】

〔和訳〕

記憶(憶念)とは、対象を忘れ去らないことである。

〔原文〕 *smṛtir ālambanāsampramoṣaḥ/*

〔出典〕 *Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu* ed. by Pradhan, 1967, 54, 22, Chap.II v.24b

戻る

【翻訳文献】

〔玄奘訳〕念謂於縁明記不忘。(『阿毘達磨俱舍論』大正 no.1558, 第29巻 19a20-21) [普光釈を見る]

〔真諦訳〕念謂不忘所縁境。(『阿毘達磨俱舍釋論』大正 no.1559, 第29巻 178b14-15)

〔チベット語訳〕 dran pa ni dmigs pa mi brjed pa'o// (Chos mngon pa'i mdzod kyi bshad pa, 北京版 vol.115, no.5590, gu 72a8, デルゲ版 no.4090, ku 64b5)

【欧文先行研究の訳例】 略

(2) 南方上座部系の五位七十五法対応語、および大乘仏教系の瑜伽行派による五位百法いずれの成果についても、より詳細な関連データを含む Web 媒体での公開をプロジェクトの HP 上に実現した。

(3) この他の研究成果は、期間中の活動報告および研究ノートとともに、『Newsletter』1-5 において公にし、併せて HP 上で公開した。

(4) この間の研究成果についてはまた、ウィーン大学、北京大学、浙江大学他での研究代表者による講演、また国際仏教学会（於ウィーン）、アメリカ宗教学会（於アトランタ）、国際東方学会議、日本印度学仏教学会等の内外の学会でのパネル、あるいは本プロジェクトが主催した公開シンポジウム等で公にし、種々の意見・情報交換を行い、プロジェクトの意義が広く理解されるに至った。

(5) 上記の意見交換のなかで、英語による成果の公開に期待が寄せられるとともに、今後はアビダルマ（論）以外の、経典および律典の主要術語を研究対象とすることの必要性についても、認識が共有された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 56 件)

1. 斎藤明「縁起と空 『中論』三諦偈解釈をめぐって」『叡山学院研究紀要』(査読有)38, 2016, 167-193.
2. 榎本文雄「煩惱の根源をめぐって—vikalpa と prapañca—」『印度学仏教学研究』(査読有) 64-2, 2016, 764-765.
3. 名和隆乾「阪大版ウェブディクショナリー作成までの作業報告」『Newsletter』(査読有) 5, 2016, 3-8.
4. 三代舞「「仏教論理学・認識論関連用語の定義的用例集」の作成に向けて」

『Newsletter』(査読有) 5, 2016, 9-19.

5. 石田尚敬「仏教論理学派における分別知の考察 シャーンタラクシタとダルモータラの比較から」『仏教学』(査読有)57, 19-36.
6. Akira Saito, "Reconsidering the Meaning of Emptiness in the *Vimalakīrtinirdeśasūtra*", *Journal of Indian and Buddhist Studies* (査読有) 63-3, 2015, 1256-1262.
7. Akira Saito, "Avalokiteśvara in the *Saddharmapuṇḍarīka-sūtra*", *Buddhism and Debate: The Development of Mahāyāna Buddhism*, Acta Asiatica (査読有) 108, Tokyo: The Tōhō Gakkai, 2015, 1-17.
8. Nobuyoshi Yamabe, "A Reexamination of *On Being Mindless*: Possible Meditative Implications of the Eightfold Proof of *Ālayavijñāna*", *Buddhist Meditative Praxis: Traditional Teachings & Modern Applications* (査読有), Hong Kong: Centre of Buddhist Studies, The University of Hong Kong, 2015, 137-307.
9. 室寺義仁「信 (śraddhā) と無明 (āvidyā) —ヴァスバンドウの『五蘊論』における定義を巡って—」『印度学仏教学研究』(査読有) 63-2, 2015, 118-125.
10. 宮崎泉「『三昧王経』第 32 章における *saṃjñā* の位置について」『印度学仏教学研究』(査読有) 63-2, 2015, 166-173.

11. 横山剛「中観派における術語の定義的用例と現代語訳の検討」『Newsletter』(査読有) 4, 2015, 3-9.
12. 高務祐輝「caksurvijnana, caksus, rupaの用例と訳例」4, 2015, 10-16.
13. Akira Saito, “How Can Buddhist Thought Be Brought Back to Life?: Buddhist Scriptures, Terms, and Translation in Present-day Japan”, *Journal of International Philosophy* (査読無) 3, 2014, 249-255.
14. 斉藤明「仏教思想は甦るか—仏典、翻訳、そして現代」『国際哲学研究』(東洋大学国際哲学研究センター)(査読無) 3, 2014, 58-63.
15. Nobuyoshi Yamabe, “Yogācāra Influence on the Northern School of Chan Buddhism”, 『佛教禪修傳統：起源與發展 2012 國際研討會論文集』(査読有), 2014, 249-314.
16. 石田尚敬「ダルモータラによる分別知の考察」『印度学仏教学研究』(査読有) 62-2, 2014, 988-984.
17. 古川洋平「パーリ文献の saddhā(確信)」『仏教文化研究論集』(査読有)17, 7-16.
18. 一色大悟「説一切有部アビダルマ文献における śraddhā」『仏教文化研究論集』(査読有)17, 17-26.
19. 高橋晃一「瑜伽行派文献の śraddhā」『仏教文化研究論集』(査読有)17, 27-36.
20. 横山剛「中観派における śraddhā の定義的用例」『仏教文化研究論集』(査読有)17, 37-44.
21. 真鍋智裕「ダルシヤナ文献の śraddhā : ヨーガ学派、アドヴァイタ・ヴェーダンタ学派に関して」『仏教文化研究論集』(査読有)17, 45—52.
22. Akira Saito, “Buddhapālita’s Metaphorical Expression”, *Journal of Indian and Buddhist Studies* (査読有) 61-3, 2013, 1173-1181.
23. Akira Saito, “A Shape in the Mist: On the Text of Two Undetermined *Sūtra* Citations in the *Prasannapadā*”, *Studies in Indian Philosophy and Buddhism* (査読有) 20, 2013, 17-26.
24. 斉藤明「観音(観自在)と『観音経』—鳩摩羅什訳の謎をめぐって—」『伊藤瑞叡博士古稀記念論文集・法華文化と関係諸文化の研究』(査読有) 山喜房佛書林, 2013, 179-189.
25. Hidenori Sakuma, “Remarks on the Lineage of Indian Masters of the Yogācāra School: Maitreya, Asaṅga and Vasubandhu”, *The Foundation for Yoga Practitioners, The Buddhist Yogācārabhūmi Treatise and Its Adaptation in India, East Asia, and Tibet* (査読有), Harvard Oriental Series 75, 2013, 330-366.
26. Nobuyoshi Yamabe, “Parallel Passages between the *Manobhūmi* and the **Yogācārabhūmi* of Saṃgharakṣa”, *The Foundation for Yoga Practitioners: The*

- Buddhist Yogācārabhūmi Treatise and Its Adaptation in India, East Asia, and Tibet* (査読有), Harvard Oriental Series 75, 2013, 596-737.
27. 室寺義仁「三法印」(dharmamudrā trilakṣaṇā)—古典インドにおける三句の発端と展開の諸様相—『東方学報』(査読有) 88, 2013, 93-112.
28. 高橋晃一「XMLの活用について考える」*Newsletter* (査読無) 2, 2013, 6-9.
29. Akira Saito, “Proof of the Authenticity of the Mahāyāna in Akṣayamati’s *Bodhi(sattva) caryāva-tāra*”, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies* (査読有) 57, 2012, 48-60.
30. 斉藤明「ナーガールジュナと<無記>説」『印度学仏教学研究』(査読有) 60-2, 2012, 966-971.
31. 榎本文雄「初期仏教における涅槃—無我説と関連して—」『佛教研究』(査読有)40, 2012, 149-160.
32. 山部能宜「アーラヤ識論」『唯識と瑜伽行』(シリーズ大乘仏教7)(査読有) 春秋社, 2012, 181-221.
33. Akira Saito, “Bhavya’s Critique of the Sāṃkhya Theory of *pratibimba*”, *Studies in Indian Philosophy and Buddhism* (査読有) 18, 2011, 13-22.
34. 斉藤明「観音(観自在)と梵天勧請」『東方学』(査読有) 122, 2011, 1-12.
35. 斉藤明「新出『中論頌』の系統をめぐって」『印度学仏教学研究』(査読有) 59-2, 2011, 956-964.
- 〔学会発表〕(計 42 件)
1. Akira Saito, “On *satkāya-dṛṣṭi*”, American Academy of Religion, Annual Meetings 2015, 2015.11.23, Atlanta (USA).
 2. 斉藤明「『中論』四不生偈の論理をめぐって」日本印度学仏教学会第 66 回学術大会、2015.9.15、高野山大学(和歌山県・高野町)。
 3. 斉藤明「『維摩経』の空」日本印度学仏教学会第 65 回学術大会、2014.8.30、武蔵野大学(東京都・江東区)。
 4. Akira Saito, “Candrakīrti vs. Bhāviveka on the Logic of MMK 1.1: Negation of Arising in the Four Possible Ways”, International Workshop on Candrakīrti vs. Bhāviveka, 2015.8.26, University of Tokyo (Tokyo, Bunkyo-ku).
 5. Shoryu Katsura, “Kumārajīva, Bhāviveka and Candrakīrti on ‘Seeing without seeing’”, International Workshop on Candrakīrti vs. Bhāviveka, 2015.8.26, University of Tokyo (Tokyo, Bunkyo-ku).
 6. Akira Saito, “Reconsidering the Meaning of Emptiness in the *Vimalakīrtinirdeśasūtra*”, XVIIth Conference of the International Association of Buddhist Studies, 2014.8.20, Vienna (Austria).
- 〔図書〕(計 12 件)
1. Akira Saito et al., *Buddhism and*

Debate: The Development of Mahāyāna Buddhism, Acta Asiatica 108, Tokyo: The Tōhō Gakkai, 2015, 104.

2. 齊藤明 他 (編著)『瑜伽行派の五位百法』(パウツダコーシャ II) 山喜房佛書林, 2014, 331.
3. 榎本文雄 他 (編著)『ブツダゴースの著作に至るパーリ文献の五位七十五法対応語』(パウツダコーシャ III) 山喜房佛書林, 2014, 251.
4. 末木文美士・下田正弘・堀内伸二編『仏教の事典』朝倉書店, 2014, 576.
5. 蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』吉川弘文館, 2014, 546.
6. 齊藤明・桂紹隆・下田正弘・末木文美士 (編著)『空と中観』(シリーズ大乘仏教 6) 春秋社, 2012, 238.
7. 齊藤明・桂紹隆・下田正弘・末木文美士 (編著)『大乘仏教の誕生』(シリーズ大乘仏教 2) 春秋社, 2011, 276.
8. 齊藤明・桂紹隆・下田正弘・末木文美士 (編著)『大乘仏教とは何か』(シリーズ大乘仏教 1) 春秋社, 2011, 300.

[その他]

ホームページ情報 (研究成果データベース)
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/sta_rt_index.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

齊藤 明 (Saito Akira) 東京大学・人文社会系研究科教授、研究者番号：80170489

(2)研究分担者

榎本 文雄 (Enomoto Fumio) 大阪大学・文学研究科教授、研究者番号：70151991

室寺 義仁 (Muroji Yoshihito) 滋賀医科大学・医学部教授、研究者番号：00190942

佐久間 秀範 (Sakuma Hidenori) 筑波大学・人文社会科学系研究科教授、研究者番号：90225839

宮崎 泉 (Miyazaki Izumi) 京都大学・文学研究科准教授、研究者番号：40314166

山部 能宜 (Yamabe Nobuyoshi) 早稲田大学・文学学術院教授、研究者番号：40222377

桜井 宗信 (Sakurai Munenobu) 東北大学・文学研究科教授、研究者番号：30292171

(3)連携研究者

石井 公成 (Ishii Kouosei) 駒澤大学・仏教学部教授、研究者番号：10176133

下田 正弘 (Shimoda Masahiro) 東京大学・人文社会系研究科教授、研究者番号：50272448

蓑輪顕量 (Minowa Kenryo) 東京大学・人文社会系研究科教授、研究者番号：30261134

(4)研究協力者

高橋晃一 (Takahashi Koichi) 東京大学・人文社会系研究科特任研究員、研究者番号：70345239

石田尚敬 (Ishida Hisataka) 愛知学院大学・文学部・専任講師、研究者番号：80712570